

# 令和 2 年度事業報告

令和 2 年度は、会員各社及び関係機関等と連携を図り、事業計画に基づき、次に掲げる事業を実施した。

なお、各事業は、新型コロナウイルス感染症の感染予防及び感染拡大防止に十分留意して実施した。

## 〔 I 〕 住宅総合展示事業等

### (1) 住宅総合展示事業（まちなみコーディネート事業）

環境、景観に優れた良質なまちなみの住宅地を実現するため、住宅総合展示事業を全国延べ 7 ヶ所、出展区画数 388 区画において実施した。

実施に当たっては、環境と共生する住宅地の形成、防犯に配慮した安全・安心なまちづくり、地域コミュニティの立ち上げ支援など、地域のモデルとなる事業の推進を図った。

また、団地再生事業や周辺の既存住宅地を含めた事業展開など、まちなかの再生への取り組みも進めるとともに、都市再生機構に加え、地方公共団体や民間事業者等の幅広い開発主体との連携を図るなど、多様な事業展開を進めた。

主要な事業としては、次の事業等を実施した。

#### ・八王子みなみ野シティ結びのまち（東京都八王子市）

「多世代 MIX」「近隣からの中高年居住者の転居・近居」を基に、①住み替え支援・促進、②多世代コミュニティ、③二世帯居住、④農ある暮らし、を実現すべく、隣接する「みなみ野病院」、地域の学校、大学、(一社)移住・住みかえ支援機構など、様々な機関、団体と連携したまちづくりを進めた。

- ・イマジンフィールド東久留米（東京都東久留米市）

まちなみデザインは、住まう方々のコミュニケーションの場となるよう広場のような空間づくりを行うとともに、まちなみデザインガイドラインを定め、高さや外壁、植栽などのルールを設け、また街の入り口にはゲートモニュメントを、コーナーポイントには花台や照明台を設置するなど、緑豊かな環境・景観で魅力あふれるまちづくりを進めた。

- ・アルコガーデン羽生岩瀬（埼玉県羽生市）

まち全体をつなぐ歩行者専用道路を配置するとともに、車の速度を抑制するイメージランプや、居住者のふれあいの場としてフットパスを整備し、まちの回遊性を高め、歩くことの楽しさ、住まう方の安全安心などに配慮したまちづくりを進めた。

## （2）モデル住宅展示事業

千葉市「幕張ハウジングパーク」、つくば市「つくばハウジングパーク」、「つくばハウジングパーク ANNEX」及びさいたま市「さいたまハウジングパーク」において、前年度に引き続きモデル住宅展示場を運営し、住宅取得を計画する一般消費者等の利用に供した。うち「さいたまハウジングパーク」は10月末に閉場した。

各ハウジングパークのインフォメーションセンターにおいては、出展メーカーの各モデルハウスや住宅金融支援機構の「フラット35」などの住宅に関する様々な情報提供を充実させるとともに、住宅に関する各種セミナー等を実施し、消費者に対する良質な住宅に関する知識の普及や情報発信に努めた。併せて、国土交通省の要請を受け、消費税率引き上げに伴う住宅取得支援策等に関する情報

提供を行った。

なお、新型コロナウイルス対策に係る特措法に基づく緊急事態宣言時においては、休業要請に従い各住宅展示場のセンターハウスでの受付業務等を自粛した。

## 【Ⅱ】普及啓発事業

### (1) まちなみシンポジウムの開催

国土交通省の「住生活月間」に協賛し、日本経済新聞社と共催で、住まいやまちづくりに関する知識の普及啓発に資するための「まちなみシンポジウム」を新型コロナウイルス感染拡大防止につき、オンラインで開催した。

[主 催] (一財)住宅生産振興財団、日本経済新聞社

[後 援] 国土交通省、(独)住宅金融支援機構、(独)都市再生機構

[日 時] 令和2年10月28日(水) 14:00～16:30

[会 場] 日本経済新聞社 カンファレンスルーム

[テーマ等] 「情報と技術が変えるこれからの郊外居住」

#### I. 基調講演

「情報と技術が変えるこれからの郊外居住」

饗庭 伸氏 (東京都立大学都市環境科学研究科都市政策科学域 教授)

#### II. パネルディスカッション

モデレーター 中西 正彦氏 (横浜市立大学大学院都市社会文化研究科 教授)

パネリスト 饗庭 伸氏 (東京都立大学都市環境科学研究科都市政策科学域 教授)

田宮 一夫氏 ((一社)日本テレワーク協会 専務理事)

熊谷 一義氏 (パナソニックホームズ(株)街づくり事業部  
複合プロジェクト推進部 室長)

[視聴数] 1,042名

## (2) 住まいのまちなみコンクール等の実施

国土交通省の「まちづくり月間」に協賛し、魅力的な住まいのまちなみを育む維持管理、運営などの活動に実績を上げている住民組織を表彰し、支援する「住まいのまちなみコンクール」を実施した。

第16回(令和2年度)「住まいのまちなみコンクール」の入賞団体は、審査委員会(委員長:大月敏雄氏(東京大学 教授))において以下のとおり決定された。

### [入賞団体]

#### ○ 国土交通大臣賞

諏訪町自治会

地区名:今泉あらい湧水公園周辺地区(神奈川県秦野市)

#### ○ 住まいのまちなみ賞

NPO 法人今庄旅籠塾

地区名:今庄宿(福井県南条郡南越前町)

クイーンズフォレスト流山おおたかの森管理組合

地区名:クイーンズフォレスト流山おおたかの森(千葉県流山市)

のぞみ野団地管理組合法人・のぞみ野自治会

地区名:リビオ姫路大津のぞみ野(兵庫県姫路市)

## 緑園都市コミュニティ協会

地区名：横浜市泉区緑園地区（神奈川県横浜市）

また、コンクールの受賞団体を中心とした全国組織である「すまいのまちなみネットワーク」の情報交換・共有のための総会は、今年度、新型コロナウイルス感染拡大により実施しなかった。

### （3）まちなみ塾

会員社の職員等を対象に、まちなみづくりに関わる人材の育成、幅広い知識や技術の向上等を図るため、一連の講義、先進事例視察、設計演習等を行う「まちなみ塾」は、今年度、新型コロナウイルス感染拡大により実施しなかった。

### （4）夏季住宅セミナー

日本経済新聞社と共催で、財団の役員、評議員、事業運営委員や会員社の幹部を対象に、国土交通省より講師を招き、住宅に係る現状、政策、税制等に関する講演をいただく「夏季住宅セミナー」を例年開催しているが、今年度は、新型コロナウイルス感染拡大により、実施しなかった。このため、規模を縮小し、令和2年12月3日に国土交通省より講師を招き「住宅セミナー」を開催した。

### （5）「第32回住生活月間中央イベント」への協力

国土交通省の「住生活月間」に協賛し、住生活月間実行委員会及び住生活月間中央イベント実行委員会に対する協力を行った。

## (6) 消費者に対する普及啓発

モデル住宅展示場において、住宅金融支援機構等の協力を得て、住宅設計、資金計画等に関する各種のオンライン相談等を実施した。

## (7) 機関誌の発行配布

イ. 良好なまちなみ、快適な住環境等に関する調査研究などの発表や住宅・まちなみに関する情報の提供を行うため、機関誌「家とまちなみ」の第81号、第82号を発行した。

ロ. 財団の広報誌として「ボンエルフ」を随時発行し、官公庁、関係機関、会員社等に配布した。

## **[Ⅲ] 調査研究事業等**

(1) 当財団が過去に手掛けた既存住宅地及びその周辺住宅地の実態を把握し、今後の対応を検討するため、過去の実査及びアンケート調査結果を踏まえ、地元自治会及び地方公共団体等へのヒアリング等を行うとともに、空家予防のための住民勉強会の開催準備を進めた。

また、8月27日に、東京都八王子市、日本工学院八王子専門学校、(株)ミサワホーム総合研究所と当財団の4者で、八王子地域における既成住宅市街地の課題解決を図り持続可能なまちづくりを推進する「まちづくり連携に関する協定」を締結し、状況把握と市場分析、地域の魅力を活かしたまちづくり、住宅ストックの適正な循環等について研究を行うこととしている。

さらに、国土交通省が主導する「住宅団地再生連絡会議」の運営に協力した。

(2) 東京都が進める「木密地域不燃化10年プロジェクト」で指定された密集住宅市街地での不燃化建替の促進とこれによるまちなみの改善に資するため、東京都及び不燃化特区のある特別区と連携し、会員各社とともに、建替相談会、セミナー等の合同イベントへの参加、協力等を行った。

(3) 住宅展示場協議会と共に、モデル住宅展示場の来場者に対するアンケート調査を実施し、「総合住宅展示場の魅力と新しい生活への対応、災害意識の変化」をテーマに、住宅取得計画者の意向の把握や住宅計画に関するデータ分析等の調査研究を実施した。

#### **[IV] 特別調査研究事業**

財団設立10周年を記念して創設した特別調査研究事業としての、海外住宅地開発事例視察調査実施については、今年度、新型コロナウイルス感染拡大により催行を中止した。

#### **[V] その他の関連事業**

前各号に掲げる事業を達成するため必要となる関連事業を実施した。

上記事業等について、事務処理規程等に基づき、適正に業務を執行した。